

大井第一小学校



同窓会会報1号

大井第一小学校同窓会 1999年



ご挨拶

同窓会会長 浅野 眞

1900年代も最後の年となりました。同窓会の皆様には、ご健勝にて新年を迎えられたこととお慶び申し上げます。顧りみて、開校百二十周年の式典、祝賀会及び記念同窓会総会、懇親会も、皆様の絶大なご支援、ご協力により、成功のうちに終えることができました。同窓会役員一同とともに、皆様に深く感謝し、御礼申し上げます。

早いもので、岡田一郎様前同窓会長の後を継いで三年になります。その間、役員の方々に助けられながら現在まで、名簿の修正、卒業式、入学式、運動会に参加などの事業を行ってきました。今回、新たな事業として、会員相互の親睦と、母校との連携を深める事を目的とした大井第一小同窓会の会報を発刊することになりました。この創刊号は先生方の大井第一小在職時の思い出話をメインテーマにしています。今後とも宜しく、ご支援、ご協力の程、お願いいたします。

歴史に輝く

第24代現校長 兒玉 潔夫

本校の同窓生で安田弥太郎さんがいらつしやいます。明治30年(1897年)2月7日生まれです。今年(1999年)2月7日で、満102歳になりました。

新年になって教頭と一緒に安田さんにお目にかかりに行き、いろいろなお話を聞きすることができました。

安田さんは、子供の頃のことをよく覚えておられて、OISの徽章ができたわけなど貴重なお話を聞かせていただきました。本年は、開校124年目になります。安田さんのような卒業生一人一人のおかげで本校の貴重な歴史が刻まれてきたわけで、これが伝統というものだと思うと同時に、この歴史と伝統を守り育てていくことが後輩や我々教職員の役割であると改めて強く感じた次第です。



OIS 徽章

「安田さんからお聞きした 記念誌にはない話」

児玉校長談

明治40年頃（安田さんの3〜4年生の頃）、当時の学級の児童は1学年5〜6人ぐらいしかいませんでした。ですから、組名（松・竹・梅）等もまだなかった時代のことです。

また、学校といっても、学校に來ないで家の仕事等をしている子供も多かった時代です。

その頃、海野六郎という先生が転任してきましたが、この先生が何とかたくさんの子供達を学校に來させようとして考え出したのが、学校の徽章を創るということでした。

そして、できたのが以前のOISの徽章で、この徽章を帽子などに張り付けさせたと、とても、子供達の評判がよく、よろこんで、帽子に付けて登校したそうです。

やはりこの頃、子供達の中に野球が流行りました。しかし、野球とはどういふものかを知る子供は皆無で、ただ手製のボールでキャッチボールをしていただけでした。

このときも海野先生が「野球を教えてやろう」といって、教えて下さったのが、三角野球でした。

この三角野球は、今でも子供達が休み時間よくやっています。当時のやり方はどうだったのでしょうか。多分、そう変わってはいないのではないのでしょうか。

このようなお話は、120周年の記念誌にも載っていない大変貴重なもので、記録に残しておきたいと思えます。

このようなお話を、先輩方からもっと沢山お聞きできれば幸いです。手紙、フアックス、電話等をお待ちしています。

「一着の背広と教師の道」

昭和28〜38 木村 孝一

私は、昭和28年4月に、新卒で大井第一小に赴任しました。

勤務して間もない日曜日に、数名の若い教師が、葛生校長宅に招待されました。ご馳走になり帰る時、私だけが奥様に呼び止められ「主人の古着ですがよかったですら着て下さい」と、一つの紙包みを頂きました。アパートに戻り開けてみると、新しい背広の上着でした。今までの私は、とりあえず教師にでもと、軽い気持ちの勤めなので、平常は詰襟の学生服で授業に臨んでいました。

こんな姿を日々見ておられた葛生先生は上着に託して無言のうちに「教師の道」を教えて下さったのです。次の日、この上着を着用して登校した私を、校長室から目を細めて見入る葛生先生の姿が、今でも目に焼き付いています。爾来「不言実行」を座右の銘として、教師の道三十八年間を歩み続けました。

「破天荒担任に よくついて来た子供達」

昭和32〜44 北川 菅雄

昭和32年赴任した私は男子教員の中で一番年下でした。それをいいことに自分のしたい放題、わがままで破天荒な存在だったと思います。先生方にならぬ迷惑をかけたことでしょうか。例えば、その頃東京でもごくめずらしかつた鼓笛隊やバトントワリング、餅つきやめんこ大会等、年の先生方に相談もしないで自分の学級だけでどんどんやってしまったのですから、若気のいたりですね。今でこそ、学校行事やクラブ活動などできちんと位置づけられています。が、あの当時は何もありませんし予算すらないので自前でした。今、私の手元に当時3年の学級の作文集が

残っています。内容は「自転車運転免許証」のことです。昭和35年頃交通事故が世間で多発し始めたので、学級で一応テストをして全員に発行しました。このニュースが朝日新聞や月刊雑誌に大きく取り上げられたこともありましたよ。

「月組」

昭和36〜52 佐藤 裕子
昭和63〜平成8

私が大井第一に行った昭和36年4月、六年生は七クラスありました。松、竹、梅、月、雪、花、星。

はじめはクラス名をまちがえたりして、「何てめんどうなの。」と思っていたが、すぐに慣れ、他の学校とはちがうクラス名は、友人達に話をするとき、誇らしく思ったことが、ついきのうのこのように思い出されます。

遠足で電車に乗っていたとき、まわりの乗客が子供達の名札を見て、不思議そうにききました。

「三月ってなあに。」
「三月じゃないよ。三月だよ。三年月組。」

「宝塚みたいですよすてきね。」
宝塚は新しく宙組ができたとのこと。大井第一はだんだん減って、今

は何クラスあるのでしょうか。数は減っても、どの子も健康で思いやりのある子に育ってほしいと願っているこのごろです。

「なつかしい大井第一小学校」

第17代校長 赤池 徳平

着任早々学校を一巡して桐の老木や大樹の多い校庭、広大な校舎への驚き。木造校舎を鉄筋校舎への改築が毎年継続し児童の事故を案じたが杞憂で安堵。都教委通達で制約のきびしい下でPTAのバザー決行に感謝感激。

結婚間近い前途有為の男性教師を自ら運転の事故で失い、葬儀委員長として見送った悲嘆。千葉県岩井の民宿での夏の臨海生活を終わっての帰途、バスは日曜日の交通大渋滞に巻き込まれ、予定より大幅に遅れ学校帰着は深夜になり、幸い児童は元気だったが保護者の皆さんには大変ご迷惑をおかけした苦しい思い出。

思い出の片々を述べたが、PTAの皆さんや地域の多くの方々から陰に陽に賜った学校への温いご協力に支えられ感謝しつつ送った楽しい五年間。長い教師生活に無事に幕を下ろし得た大井第一小はなつかしい。

「桐の花」

昭和49〜61 木部 貞子

始業のベルが鳴ったので、教室に戻ると、教卓の上一面優雅なうす紫の桐の花が並んでいました。五月のうららかな日だったと思いますが、入学して間もない担任の子が誰いともなく、校庭に散り敷いた花を拾って飾ってくれたものでした。その桐の樹は今はありませんが、あの子供達は心優しく成人したこと一人ひとりに思いを馳せながら、私もその春転任して来て、校庭にそびえ立つ桐の老樹に、強く心引かれたこと等を併せてなつかしく思い出しています。

第一小は伝統のある名門校で、良き卒業生が誇りであると先生方は語られ、担任の子供達もなかなか利発で、又ご父兄や先生方が子供達や学校を大切にされる様子が度々感動しました。桐の大樹は皆に惜しまれながら天寿を全うしましたが、思い出を辿る時、あの教室の光景は仄かな桐の花の香に包まれます。

「校庭舗装と桐の木倒れる」

第20代校長 黒田 彦治

同窓会報発刊のご計画を承り、画期的なことでは非続けて、育てていつてほしいと思います。私も区内の小学校同窓会で副会長をしています。よい会報を作ってください。

さて思い出ですが、退職後十六年にもなりますので大分遠くなりました。児童数は千人を超えていた頃で、確か雪組も学年によってあったと思います。遠足の引率は同時に五組約二百人を、電車に乗せるのは大変でした。日光移動教室も四回同行し戦場ヶ原を経て湯本まで、児童達と一緒に歩いたのは、大変楽しい思い出でした。私の在職中に校庭舗装と整備が行われ、校庭の様子が大きく変わりました。以前のアスファルトからダスト舗装になって、サツカーがし易くなりました。この直前思い出の桐の木が台風で倒れ、同窓会長の岡田さんに見て頂き、残念でしたが処分したことを思い出します。

「創立百周年の思い出」

第21代校長 小林 喜人

私は昭和49年3月より53年3月まで教頭として奉職しました。大きな

思い出は創立百周年です。昭和50年の記念式典に間に合うよう鉄筋校舎の改築が進められました。

工事中は校庭にプレハブが建てられ、暑い夏には屋根によしずを載せ暑さをしのぎました。改築により大きな木々が倒され、海老根校長先生は心から残念がりました。

昭和50年には校舎ができ、11月11日記念式典が盛大に挙行されました。その準備として記念誌の作成、50年後開くカプセルの作成、式典の準備、菊作りなどをしました。

同窓会では岡田一郎会長さんを中心に何人かの方が鹿島神社に集まり名簿を作成し、百周年を祝う会を開きました。体育館が一杯になるほど同窓生が集まり盛会でした。その記念として小鳥小屋を寄贈されました。そこで小動物も飼い児童の人気を集めました。

「緑に恵まれた大井第一」

第22代校長 大野 福三郎

昨春秋 久しぶりに大井第一の門をくぐった。玄関にすばらしい菊が並んで私を迎えてくれた。「ふらつと会」と児童で育てている菊であ

る。校庭に菊を飾って、菊作りの苦
 勞話に耳を傾け 菊の歌を歌い、給
 食には菊ごはん、菊茶を飲んで「菊
 まつり」を楽しんだ催しが脳裡をよ
 ぎる。冬を越しやがて一勢に芽をふ
 き、花を咲かせる校庭の木々に目が
 いく。銀杏をいっばいつけるいちよ
 う、卒業式、入学式を飾るさくら、
 昔の唱歌に出てくるなつめ、杉やカ
 ヤの大木等々 都内では緑の多い恵
 まれた学校といえる。なかでも私の
 頭に強く印象に残っているのは、校
 庭の真ん中に陣取っていた桐の大樹
 である。晩春には、紫の大きな花を
 咲かせ 夏には 大きな木陰を作っ
 て、私たちの心を休ませてくれた大
 切な樹であった。昭和56年8月の台
 風で根元から倒されてしまった。か
 えすがえすも残念である。

「120年の歴史の集約」

周年行事

第23代前校長 栗田 敦子

120周年記念行事は、平成7年
 11月18日、同窓会長岡田一郎様をは
 じめ多くの同窓生のお力を借り、盛
 大にとり行うことができました。午
 前中の式典・祝宴に続き、午後の講
 演会、祝賀会には大勢の方がお集ま

りいただき、そここに笑いの輪が
 湧き起こっておりましたのを未だに
 覚えております。

「開け！21。われらの時代」を合言
 葉に子供も力を發揮してくれまし
 た。また、西門の側にある「杜の哲
 学者」なるブロンズ像は学校のシン
 ボルとして、この日以来子供の成長
 を見守っております。会員の皆様の
 お志により建立できたものです。卒
 業50年の記念樹は花をつけ実をつけ
 ております。記念誌の学年組一覽は
 卒業生の調査のためものです。こう
 した皆様のご厚意により、記念行事
 は成功のうちに終わることができま
 した。今もって、感謝しております。

同窓会総会のお知らせ

日時 平成11年4月17日(土)午後2時
 場所 大井第一小学校

議題一、事業報告及び収支決算の承認
 二、事業計画及び収支予算案の承認

- 三、役員の変更の承認
- 四、会則の変更についての同意
- 五、その他本会の運営上特に重要な事項

同封の振り込み用紙、通信欄にて出欠席
 のご返事をお待ちしています。

同窓会名簿の完全を期してのお願い

期してのお願い

平成八年創立百二十周年記念事業の一
 つとして、大井第一小学校同窓会名
 簿第一号を作成いたしました。その
 際、多くの方々から名簿の提出に大変
 なご協力を戴きました。感謝申し上げ
 ます。出来るだけ、網羅して完璧に近
 いものをと心掛けましたが、少ないス
 タッフと限られた時間の中ではその作
 業を成しとげることが大変困難なこ
 とでした。従って名簿そのものがそつ
 くり脱落していたり、古い資料などでご
 不満やお叱りを頂きました。ここに改
 めてお詫びを申し上げます。第二号の
 訂正も含めて作成出来るだけ早くと
 意気込んでいたのですが、諸般の事情
 で平成一八年の母校創立百二十周年記
 念事業の一環として作成することとな
 りました(二月二日の理事会決定事
 項)。今後じっくりと時間をかけて資
 料の収集整理につとめていきたいと思
 います。

就きましては、各卒業年次の同窓会、
 並びに同期会幹事の皆さん、名簿の完
 全を期して資料の提出にご協力をお願
 い申し上げます。

提出先 〒140-0014

東京都品川区大井六―一三十二

品川区立大井第一小学校内

同窓会事務局 広報委員

TEL03・3771・5240

FAX03・3771・5348

Email: oich@nets.ne.jp

同窓会会費納入のお願い

同窓会事業を継続していくには、
 通信費、会報等の印刷費、事務諸費
 用、母校に関わる慶弔費等の諸費用
 がかかります。

今回の会報は約8000名に送付
 致しましたが、印刷費、郵送費から
 みて 今後も会報を続けるには皆様
 からの資金援助がなければ、第二号
 の発行すら難しい状況です。母校へ
 の協力と、安定した同窓会活動に対
 する我々の意気込みをお汲み取りい
 ただき、会費納入に皆様のご理解と
 ご賛同を心よりお願い申し上げます。

一口 一〇〇〇円(口数は自由です。)

同封の振り込み用紙をご利用いた
 だき、五月末までにお振り込みくだ
 さい。

同窓各位からの投稿もお待ちしております。
 ですので、同窓会活動の活性化のた
 めに会報を利用してください。

編集委員

昭和十三年卒 松崎 淳子

昭和三十二年卒 南澤 和子(加藤)

昭和三十四年卒 森 秀雄

昭和三十五年卒 東山 周子(兼村)

昭和三十五年卒 上野 良子

昭和三十五年卒 松本 徳太郎

昭和四十三年卒 野添 裕